

平成24年度 東北総合体育大会山岳競技ブロック会議・ 日本山岳協会競技委員会ブロック別研修会 議事録

期 日 平成24年11月24日(土)～25日(日)
場 所 山形県西置賜郡飯豊町・飯豊町民総合センター会議室
主 管 山形県山岳連盟

内 容

会議研修内容：当日配布の別紙平成24年度東北総合体育大会山岳競技ブロック会議・
日本山岳協会競技委員会ブロック別研修会資料による。

参加者：当日配布資料による。

東北総合体育大会山岳競技ブロック会議及び日本山岳協会競技委員会ブロック別
研修会参加者名簿による。

日山協：神崎会長以下4名

東北六県山協・岳連：青森岳連服部会長外受講生を含め30名

開会式：12時40分山形岳連青木理事長の進行で開会、佐々木山形岳連副会長が開会
挨拶。清野山形岳連会長が開催県代表の挨拶、続いて日山協神崎会長が日山協の
近況を報告の挨拶、閉会の挨拶を佐々木副会長が行い開会式を閉じた。

続いて、出席者の自己紹介・連絡事項が行われ、東北総体山岳競技ブロック会議、日山
協競技委員会ブロック別研修会と日山協公認クライミングC級審判員認定研修会
がそれぞれの会場に分かれて開催。

『東北総合体育大会山岳競技ブロック会議 会議録』

議長は慣例により開催県会長が行う事により、清野山形岳連会長が開催する旨挨拶後議
題により進行。

24日(土)

議1) 平成24年度第39回東北総合体育大会山岳競技について、

秋田県山岳連盟佐々木会長が既に表彰式や競技結果を報告している通りであり、開催に
ついて大きな課題やクレームもなく無事終了した。東北各岳連のご支援とご協力に感謝す
る旨報告。 このことについて各県から意見質問の開陳を求めたが特になし。

議2) 平成25年度第40回東北総合体育大会山岳競技について、

山形県山岳連盟青木理事長から、競技実施要項(案)について説明、開催期日平成25年7
月26日から28日まで、会場はリード競技を飯豊町町民体育館クライミングウオールで

ボルダリング競技を山形市クライミングジムデットポイントで、競技規則は現行の規則基準により開催する旨説明。このことについて各県から意見質問要望を求めた結果、

1. 最終日のボルダリング競技は競技終了時間が延びれば各県が帰宅する時間も遅くなるのでリード競技とボルダリング競技を交換できないか日程の変更を要望されたが、宿泊施設や行政が既にこの日程で進めていることから理解してもらいたい旨説明。その外意見の開陳を求めたが特になし。

議3) 日本山岳協会の現状について、

日本山岳協会神崎会長から挨拶時も報告があったが、日山協が公益法人として認可された今の現状として様々な課題を抱えている。国際山岳連盟の開催、ワールドカップ開催、オリンピック種目、アジア山岳連盟、全国高校生クライミング大会の開催、卓越登山、健康登山、競技登山の在り方、エベレストの大衆化、日中韓学生登山とレスキュー研修会、公益法人としての日山協のありかた、未組織登山者対策、個人会員制度の検討、組織事業の見直し、共済会の事業拡大、財政問題、等登山に対する意識改革が必要な時期である。同じく、尾形専務理事から、日山協公益法人の認可にむけたヒヤリング内容として、定款内容、定年制、参与、理事数、今後の執行部としての理事の責務、日山協の組織の改変、総務、登山、競技などに大別される各方面総合検討の為、プロジェクトを立ち上げ検討を進めたいと説明があった。

このことについて質問要望意見の開陳を求めた結果、各県連盟・山協から次のような事項が出された。

- 1、競技大会施設の固定化、高体連との関連で人材育成の必要性、オリンピックに対する競技団体の意思決定を、クライミング大会とのかかわりで高校生のインターハイの見直しを、公益法人として公益事業比率は、国体種目としての今後は、個人会員の中央と地方の兼ね合いで今後の課題は、組織内の高齢化による人材不足の懸念、クライミング施設が市内中央部に位置し利用状況が多く財政的、個人会員とも増加している、個人会員は帰属意識が少ない、選手登録に努力をして競技人口を増やす努力をしており結果が良い。等の意見や要望があった。

議4) 日本山岳協会臨時理事会の報告について

このことについて、東北理事青森岳連会長服部会長から、資料により報告、理事会の内容は、今回の研修会や日山協の現状報告、更に神崎会長挨拶、専務理事からの説明によるものと重複するので簡単に結果を報告された。(別添配布の資料の通り)

このことについて意見や質問を求めたが特になかった。

議 5) 日本山岳協会東北理事選出について

このことについて、開催県の山形県山岳連盟会長が提案、(別添配布資料の通り)説明が行われた。一昨年秋から議論が続いている標記の事について、先の5月開催の岩手県での会議結果を受けて、現理事である福島岳連尾形会長と青森岳連服部会長、及び開催県山形岳連で協議し、その選出ルールについて提案してもらいたい旨を受けて3県協議の結果提案するものである旨説明。

その結果、方法を種々検討したところ次のように提案したいとして、現行の選出ルールを生かして、平成25年～26年は岩手県と秋田県で協議して選出、その結果、太平洋側と日本海側交代で2年間務めること。日山協の『加盟団体規程』8条の『地域連合』を結成し日山協との繋がりをより深化させることとし、連合の規約や役員、議事録等を整備する条件付き事項を提案する旨説明。

このことを受け種々協議の結果、岩手県山協から次回理事は岩手県が平成25年～26年の2年間務めることを内諾を得、更に平成27年～28年を秋田県、平成29年～30年を宮城県、31年～32年を山形県、33年～34年を福島県、35年～36年を青森県が務めることを了承した。

又、付帯条件については議6)により福島岳連から説明があるが、この際一括して協議、福島岳連尾形会長から地域連合の考え方について説明が行われ、今審議中の事項と重複するのが、提案県として次回5月の会議まで福島岳連で規則や、内容を協議して提案する旨説明があり、議6号も一緒に了承された。

尚、日山協の理事について、定年制の設定、正会員の扱い、評議員会議の代替え、各委員会構成に対する地方と中央の考え方の整理について等質疑が行われた。

議 6) 日本山岳協会東北地域連合の結成について

このことは、議5)で十分説明議論したので先の結論どおり、来年5月まで協議し整理して提案したい旨尾形会長から報告があって、会議参加者から了承された。

議 7) その他

このことについて、各県岳連、山協から次のような意見、要望、質問が行われた。

- ・クライミング競技のB級審判員の東北ブロックでの養成と拡充について、現在のままでは大会運営が将来危ぶまれる、ぜひ拡充を図ってもらいたい旨要望。
- ・ワールドカップ開催を是非東北で、を日山協から要望。
- ・全日大会の開催について、現在2013年まで開催が決まっているが、公益法人になってから開催方針を見直さなければならない時期である、これからの在り方も含め検討したい旨説明があった。
- ・地域連合の事業に是非クライミング大会と全日大会のような健康登山大会を盛り込んで

ほしい旨要望。

- ・スポーツライミング指導員養成講習会を開催してもらいたい。
- ・次回東北大会の開催について、5年前のスタイルで開催していくのではなく、一步でも前進した形で（山形県で開催するリード競技、ジムでのボルダリング競技を）開催する努力をしてもらいたい。（要望）これに対し、開催予定県から内容について再度説明があり（各県事情や県体育協会の考え方などにより努力の結果が見えない状況を説明）中身についてはまだまだ検討したいが財政事情や各県の競技に対する向き合い方に相違がある為、理解不足になるのは残念なことと考えられる。

以上を経て24日分の会議を終了。

25日(日)午前8時30分～

前日の積み残しの議題から。

秋に開催される『東北総体ブロック会議・日山協山岳競技地区別研修会』の会議の在り方について議論された。日山協の競技委員会ではブロックからの意見を吸い上げるものが少ないなどが感じられ、ブロック会議と運営研修会の位置付けなどを見ると、現在の会議の在り方その運営が現状ではすぐわなくなっていることを踏まえ、今後どのように特に地域連合が結成されることなどを念頭に検討を進めた。

結論として、現在のブロック会議と日山協の地区別研修会を区別するか等、話し合いが行われたが、結論として従来どおりとして、会議日程の中に参加者全体の会議項目を入れて当該年度に開催された国体山岳競技や大きな国際大会などの報告や見分が出来るような持ち方に変えるべきとされた。その他各種貴重な意見が多く出されたことを受け、日山協は持ち帰って検討整理するものと東北ブロックでは次回開催県に引き継ぐもの、継続して審議していくこと等を確認した。

途中休憩をはさみ、トレイルランニングの現状と課題、松田講師からの山岳競技の規則改正や国際ルール改正、来年度の競技委員会総会、日山協総会で説明される規則内容などが説明され11時40分すべての会議が終了した。

11時45分から閉会式が行われ、開催県山形岳連清野会長からお礼の挨拶、福島岳連尾形会長から次回開催県の挨拶をいただき閉会した。

尚、C級審判員認定受講者は山本講師のもと、昼食を取らずに認定講習が進められ、大変充実した認定講習会が時間通り終了した。

【佐々木山形県岳連副会長の開会挨拶】



【清野山形県岳連会長の開催県代表挨拶】



【日本山岳協会：神崎会長と尾形専務理事】



【開催県・清野山形県岳連会長が議長として議事進行】



【青木理事長の H25 年度東北総体実施要項（案）説明】



【神崎会長から日本山岳協会の現状と課題について説明】



【山形県山岳連盟の参加者】



【宮城県山岳連盟の参加者】



【C級審判員認定研修会】



【競技運営員認定研修会】

